

## 最初はみんな「お殿様かお姫様」の避難所

（福岡市 60代 男性）

避難所に来た皆さんは、最初はお殿様かお姫様みたいに、じっと座っているだけなんですよ。私たち小学校区の役員が対応に追われているときも。同じ被災者なのにね。

そこで、「元気な方はどうぞ、一緒におにぎりを握ってください」、「お米を研ぐのを手伝ってください」とお願いしたら、若い人もお年寄りも我に返ったように、「それなら」と気持ちよく炊き出しの手伝いをしてくれました。

あれから、避難所にいる人たちの気持ちがひとつになったような気がします。だから、避難されてきた方々をお客様みたいにさせない方策、例えば必要な役割ごとにあらかじめチームを作っておいて、どこに何人配置するかを決めておく。避難者にも作業をお願いするということも考えておくことが必要じゃないかと思います。



## 避難所のリーダーさんは中学生

～校庭キャンプの経験生かす～

（福岡市 50代 男性）

学校に行ったら、子供たちが率先してハンゴウ\*を出したり、畳を干したりしていました。大人の方も手伝っていましたが、確か、その春に卒業したばかりの子供たちが中心になっていたと思います。

最初の3日間ぐらいは、畳とかマットを敷いて、小学校の講堂に避難してきた人たちを寝かせたのですが、子ども会で年に1回、校庭でキャンプをしているので、講堂のどこに何がしまっているのか、子供たちは全部知っているんですね。

避難所になっている小学校の隣は消防署でしょう。寒いからと言って消防署の方も一緒にたき火をしようということになりました。子供たちは校庭キャンプでバーベキューをした経験があるから、ドラム缶で火をたこう、お湯を沸かそう、という時に自然にできたのです。

\*ハンゴウとは、アルミニウムなどで作った底の深い炊飯兼用の弁当箱。  
キャンプなどで使用。



## ふだんからの声かけが災害時に生きる

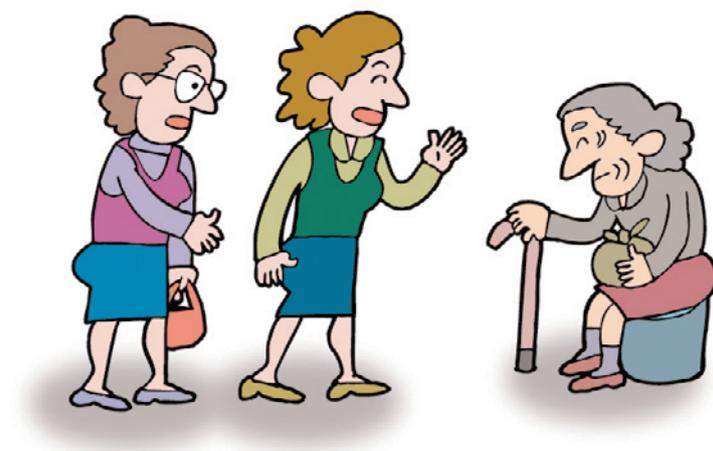
（三条市 80代 女性）

自分は今、民生委員\*をさせていただいているんですが、市のほうからいろいろな指示が来たときに、「いや、おら、そんなとこ、嫌だから行かぬえ」っていうお年寄りもいますよね。そうじゃなくて、「あんたの言うことだったら聞くから、おれも一緒に連れていってくれ」というような、信頼関係をつくっておくことが大切だと思います。

洪水で本当に水がどんどん追いかけてくる場合は、年寄りを置いて、自分が先に逃げるかもしれませんけれども、まず、地域のお年寄りの人たちに、安心して町内に住んでもらって、みんな助け合っているんだということをわかってもらえれば、「頼むね」「うん、任せてね」という、そういう信頼関係ができると思います。

普段からお宅を訪問して健康状態を聞いたり、心配事はないかとかいう話しをしておいて、自治会長さんとうまく連絡をとりあって、一緒に避難するという約束ごとをつくっておけば、みんな一緒に逃げられるって思いました。

\*民生委員とは、社会奉仕の精神を持ち、常に住民の立場になって相談に応じるなど、社会福祉の増進に努めることを任務として、市町村の区域に配置されている民間の人です。また、民生委員は児童委員を兼ねています。



## スリッパではあぶない家の中

～部屋の中は、どこもワレモノだらけに～

(輪島市 60代 女性)

私の家は「一部損壊」でしたが、うちの中はそこら中の物が倒れて、足の踏み場もないほどでした。

台所の食器棚は扉が開き、中の茶わんやコップがほとんど下に落ちて、床の上に踏み場もないほど散乱していました。

よく「防災グッズとしてスリッパを用意したほうがいい」なんて言いますが、ああいう時は、実際、スリッパなんて、とてもじゃないけど使いものになりませんね。カンタンにはぬげない、底の厚いしっかりした靴をはかないと足を切ってしまうそうだったから、家族みんなで家の中でも長靴やズックをはいていました。



## 薬持ち出せず、避難所で大弱り

～自分の薬は肌身はなさず～

(輪島市 60代 女性)

年寄りの方がたくさんおるでしょう。避難所に行って感じたのは、お年寄りはみんな常にお薬を飲んでいるから、どんなときも自分の薬は肌身はなさず持っていないといけないなということです。

夜中の2時ごろ、おばあさんが避難所のすみでちょこんと座っていたので、わけを聞くと、「リュウマチで痛くて眠られん」と言うのです。で、連絡すると、すぐにお医者さんが看護婦さんと一緒に来てくれたんです。それにはほんとうに頭が下がりましたね。

先生が「これを飲んで」と痛み止めの薬を渡していると、それを見て「私にも薬をください」と言う人がいっぱいいました。引き出しに置いていたから、とっさに持ってこられなかったという人が多かったですね。だから、前もって何かに分けておいて、いつでも持って逃げられるようにしておかなければいけないとつくづく思いました。



# 一日前プロジェクト みんなでやってみよう！

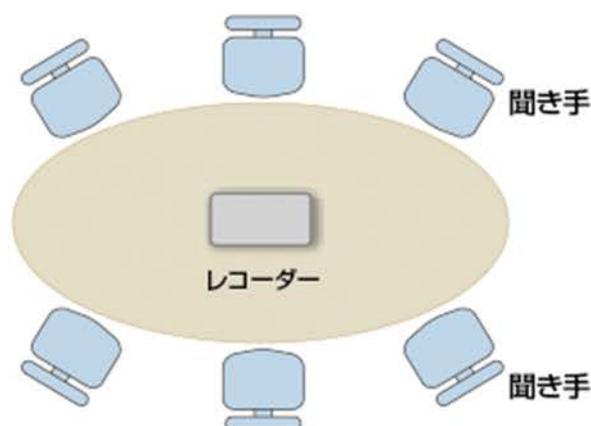
—簡単な手順を紹介します—

まず、過去の自然災害（地震、水害等）の中から対象を選ぶ

その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、  
体験したり感じたことを話し合ってもらおう ※話し手は、2人～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする  
※物語は、300字～500字程度で、できるだけ語り口を残して編集  
※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省